





明神山古道整備隊  
南予へ行く  
安全な整備に向けて  
準備を開始

(文責) 原田 浩明



1日目の座学の様子

令和2年2月1日から2日間、愛媛大学地域協働センター南予および西予市城川町高川にて、チエーンソー刈高機安全講習会が行われ、我が明神山古道整備隊3名も参加しました。菊地林業・愛媛県林業研究グループ会長の菊池俊一郎さんが講師として、1日は「チェーンソーと刈高機」の安全な使い方についての内容を踏まえての実習という形で、実習林にて受け口・追い口づくりを行い、実際に伐採を行いました。ここで学んだことを今後の明神山古道整備に役立てていきたいと思っています。



2日目の伐採実習の様子

空き家の活用で  
三秋を元気に！

(文責) 原田 夏子



移住カウンセラー富田さん(中央白いTシャツ)

令和2年2月15日、伊予市移住サポートセンター「いよりん」の移住カウンセラー富田敏さんを講師にお招きし、「移住者の受け入れに向けた出張勉強会」を三秋集会所にて行いました。まず、民間による移住受け入れのワンストップサービスを行う「いよりん」についての説明あり、空き家を活用した移住者受け

入れの取り組みについて、図解を交えて解説。富田さん自身、東京からの移住者ということもあり、実体験を交えた大変分かりやすいお話でした。昨今、三秋地区内でも空き家が増え続けています。そのまま放置しておく、老朽化が進み、維持管理が大変になると共に、場合によっては、火災等の災害の原因にもなりかねません。こうした空き家を賃貸や売却で活かすことで、地域が元氣になればと思っています。空き家に関するご相談は、伊予市移住サポートセンター「いよりん」へ。空き家相談専用ダイヤル(050・5238・4643)または、<http://iyo.rn.jp>へアクセス。



スライドを使って分かりやすく解説

秋のイベントに  
向けて準備開始

(文責) 原田 浩明

◆今年の出来を左右する？

4月16日レンコンコンファームにて、種レンコン掘りが行われた。昨年11月の収穫イベント後、次年度用に確保しておいた区域から、種レン



種レンコンの掘り出し作業

コンを掘り出す作業である。レンコンの節から出ている芽を折らないよう慎重に掘り出す。この種レンコンの状態次第で、今後の生育が左右される。今後の生育がよい。細心の注意を払いつつ、何とか目標の量を掘り出すことに成功した。



掘り出した種レンコン



◆途中の管理が大事です！

レンコンの芽が伸び出してきた5月の終わり頃、ウキクサなどの雑草もまた同じように伸びてきており、レンコンに覆いつくさんとする。畑全体を覆いつくさんとする。勢い。これらの雑草を取り除かないと、今後の生育に影響を及ぼしかねない。そこで、6月5日、有志数人が集まり、畑内の一斉除草が行われた。作業は困難を極め、特に、取り除いた雑草を畑の外に出す作業は、水を多く含んだ



芽を折らないよう慎重に

◆大きくなれ...

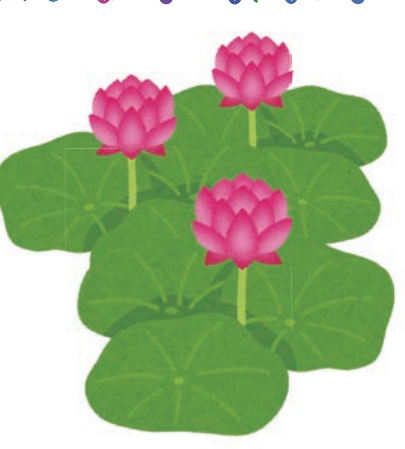
でいて非常に重く、また足元も悪い。そのため、大変な重労働。それでも黙々と作業すること7時間、畑内の雑草はほぼ取り除かれ、良質なレンコンが育つ環境に整った。夏には、大きな蓮の花が咲くことだろう。



除草前(before)



除草後(after)



みあき今昔物語

(文責) 原田 浩明



昭和55年の亥の子



令和元年折戸組の亥の子



令和元年下三秋組の亥の子

「命の水」。我々が生きていくのに欠かせない存在である。神階の最上位『正一位』を裁下された折雨の神を祭る水之明(みずのあき)神社が、ここ三秋に鎮座する。その神様が、元々存在した明神山から降りて来られたものだと聞くからおもしろい。



水之明神社にて

ミユゼ自由大学  
タウン・ツーリズム  
講座 in 三秋

(文責) 吉田 克浩

今回の今昔物語は、「亥の子」です。モノクロ写真は昭和55年11月に撮られたもの。撮られた場所は後の背景からおそらくJRの旧三秋信号所辺りだと思われる。そして、写っている子供たちは撮られた場所から、当時の端組の子どもたちではないでしょうか。一方、カラー写真は昨年(令和元)11月、折戸・下三秋両組で行われた「き」のもです。今も昔も変わらぬこの伝統行事をこれからも守り続けていきたいですね。



西願寺の歴史について解説する講師と受講生

三秋の企業にズームイン!!

ファイル2 ~ ストープショップ三秋の森(株式会社共栄木材 三秋プレイス内) 編 ~



奥に薪ストーブがあるところで取材(三秋ホール)

る事業  
Q.事業規模と社員は何名?  
三秋プレイス(工場と事務所機能等)、双海に加工部工場(本社)と倉庫 社員数35名  
Q.三秋に事業所(工場)を置かれたのはいつから?  
2008年の秋、下灘(双海町)から三秋に移動  
Q.「三秋の森」という名前にした理由は?  
薪ストーブのイメージと「みあき」という音の響きの良さ、そして言葉がきれいだったので。ちなみに、「みあき」と読んでくる方は割と少なく、「さんしゅう」と読む方がよくいます。  
Q.「三秋の森」とはどんなところ?  
共栄木材三秋プレイス内にある一施設で、薪ストーブを販売するところです。  
Q.「三秋プレイス」とは?  
いろんなものがある場所という意味。本社は現在も下灘(双海町)にあります。  
Q.三秋に事業所を構えた理由は?  
ご縁ですね。元々土地の所有者が三秋の方だったからです。  
※プチ情報  
不定期ですが、今回取材で伺った三秋ホールでいろんなイベントをやっているそうです。詳しくは共栄木材公式HPにて。



講生18名は、『三秋を知ろう』を合言葉に、三秋地区散策の第一歩を踏み出した。本日のコースは、水之明神社↓西願寺↓三秋大池。R378号から少し入った場所に位置する三秋は、通過点と認識されているのか、伊予市民でも訪れた人が意外と少ない事に驚く。ところがいざ散策してみると、興味をそそられる物が次々とお出ましになる。水之明神社では、陶器製狛犬や鹿子ノ木(かごのき)の群生、樹齢数百年はあるうかと思しき楠の大木、稚児柱つきの鳥居、その奥には花崗岩の柱が乱立、もちろん拝殿の瓦には『水』の文字が刻まれている。これは何?何故ここに?の連発である。合祀する7名の祭神がワンチームとなり、ここをがっちり守って来られた歴史を感じる。美しい石垣の上に佇む曹洞宗西願寺では、寺宝6百巻の太般若経や江戸末期三島町金岡窯の磁器と対面。焼き物文化との繋がりに想いを寄せる。また市指定文化財で樹齢600年のソテツは庄巻。本堂内に飾られている戦前の写真からは、お寺を囲む今昔物語も楽しんだ。最後は、三秋大池。数々の大蛇伝説を持つこの池は、山肌を



水之明神社境内入口にある石塔

「六十六部」ってなに?

(文責) 日山 貞治

水之明神社境内に、奉納大乗妙典六十六部日本廻國と彫られた石塔があります。山岩の自然石で、切石積み

台座の上に、上面をノミで削った基礎石に、高さが1メートル15センチ、幅が50センチの大きなで立てられています。これは、廻國塔と呼ばれるもので、法華経「別名大乗妙典(だいじょうみょうてん)」と言われるお経を、讃岐・阿波・土佐など各国一箇所、全国で六十六箇所の著名な寺社に一部ずつ納めた巡礼を記念したものです。文字を見ると、江戸時代後期の安永2年(1773)の3月に、伊予大洲領三秋村に住んでいた仙波利左衛門さんが祈願して建立したものだといわれています。

これらの廻國は、普通僧侶が修行のために行うことが多いのですが、中には熱心な在地の信者もいて、利左衛門さんなどは一人だっただようです。当時は、全国を廻って歩くことは大変な難行であったと思います。